

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、異業種交流活動を通して、持続可能な地域経済圏をつくり、夢と希望に満ちあふれた、元気な地域社会を目指します。



3月号／2021年3月1日発行

三つの目的

- 一つ 元気な会社をつくろう
- 二つ 元気な人財をつくろう
- 三つ 元気な経済圏をつくろう

2月24日(水)
18:30～

2月創立記念講演会

会 場
いわきワシントンホテル

演題 「100年つづく企業実現に向けたデジタル化のススメ
～100の事例、100のストーリーから学ぶ～」
講師 つづく株式会社代表取締役 井領 明広 様



●小野代表幹事挨拶

皆さんこんばんは。本日はコロナ禍の大変な時期に「いわき経済同友会創立記念講演会」にお越し下さいまして誠にありがとうございます。このような状況下でこの会が行われるのか大変心配をいたしましたが皆様方のお陰をもちまして開催される運びとなり、嬉しく思っております。

今日はいわき商工会議所さんと共にいわき経済同友会の共催事業といたしまして、初めて開催する事になりました。震災から10年が経ち、コロナ禍の中、この古里いわきを立て直したい。そして私たちの会社・事業を良くしたい。との思いで、この講演会となりました。この会場には60名、Zoomによる参加者が約100名程おります。是非、有意義な会にした

いと思います。

最初にいわき経済同友会について少々触れさせて頂きます。私達いわき経済同友会はいわきを中心とした異業種の事業所約130社が加盟している団体で、日夜いわきを良くする為に、各会社を良くする為に勉強している団体です。今年の11月で33年目を迎えます。本来であれば昨年の11月にこの講演会を実施する予定でしたが、コロナ禍の為今日に延期となりました。

いわき経済同友会は異業種交流を通して持続可能



な地域経済圏を作り、夢と希望に満ちあふれた、元気な地域社会を目指しましょうというのが理念であります。

目的といたしまして、元気な社会をつくろう、元気な人財をつくろう、元気な経済圏をつくろう、を合言葉に世界で一番住みやすい町を目指して活動している団体です。

本年度はコロナ禍の活動で、なかなか思い通りの活動はできませんでした。4月には緊急事態宣言が全国に向けて発令され活動が制限され、観光業界・飲食業界に大きな影響が今なお続く状況です。また、働き方改革等で慢性的な人財不足、賃金のアップ等と私達をとりまく環境は年々厳しさを増している中に、このコロナ禍となりました。

このような中、新しい生活様式の導入が叫ばれ、テレワーク、リモートによる会議等ITを活用した活動が私の中にも入り込んできました。こうした動きは今後増え拍車がかかると考えております。

こうした私共の生活や事業の環境変化を踏まえ、経済同友会はこれから時代にマッチした新しいビジネスモデルを作っていくためにDX（デジタルトランスフォーメーション）についての知識が不可欠と勉強を深めてまいりました。いわき商工会議所さんもDXについて研究し、セミナーの開催を考えておられるとの事をお聞きし、この開催となりました。いわき商工会議所さんには大変感謝いたしております。

『100年つづく企業実現に向けたデジタル化のススメ～100の事例、100のストーリーから学ぶ～』

講演会内容 100年つづく企業実現に向けたデジタル化のススメ

～100の事例、100のストーリーから学ぶ～

講 師 つづく株式会社代表取締役 井領 明広 様

皆さん、こんばんは。今日は会場に加えてリモートにも沢山の方々にご参加頂きポテンシャルを感じますね。

さて、コロナ禍は悪い事ばかりではありません。『100年つづく企業実現に向けたデジタル化のススメ』デジタル化は義務ではありません。デジタル化、IT化は任意なんです。しかし、この任意の事に対して、国は『デジタル庁』として一つの省庁

つづく株式会社代表取締役 井領明広様の講演会が皆様の力になると考えております。

本日お集まり頂いた皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。本日のご参加、誠にありがとうございます。

●いわき商工会議所総合調整委員会委員長

神長真一 氏 挨拶

皆さんおばんです。令和2年度を振り返りますと、コロナの影響で我々商工会議所の委員会活動も大幅に変更を余儀なくされた年度でした。

私達の委員会ではアフターコロナを見据えた今、何をすべきかという視点で、ウィズコロナにおける地域振興プランを進めてまいりました。地元の産学官からキーマンの方々にお集まり頂き、いろいろな角度から提案を頂きました。その中で中小事業所様のIT化、デジタル化を支援していくこうとなり、取組みを明確にした訳です。具体的な施策として2つを考えております。

1つはセミナー、機関紙等を通して、全国からの様々な事例を発信し、IT化、デジタル化を身近に感じて頂きたい。もうひとつは、地元企業のOB人材、シニア人材を活用し、具体的に成功事例を作ろうということです。

この2つが1つになること。特に小規模事業所様において興味がありましたら是非商工会議所にコンタクトを取って頂きたいと思います。コロナ禍を乗り越え、持続可能な企業づくりをいたしましょう。

をつくろうとしています。

AIで銀行の店舗が無くなり

ます。デジタル化はただの手段です。その先にものすごいものがあるから、やらないと困るから、皆さん必死になっているのです。DXはやるべきです。

何かの夢があって起業し、全ては目的次第です。今日はそんな話をします。

私の会社の紹介になりますが、つづく株式会社は



長野県上田市にあり、2017年に設立しました。社員数は2名で年間10社程「経営管理＝(バックオフィス)」領域のDX支援をしております。

○官公庁向け支援事例 2020年コロナ問題発生以降～

色々な問題が社会にあり、それを乗り越えます。混乱する中小企業、錯綜する情報。必要な情報を鮮度高くまずは届けることが、私の会社の存在意義です。

○今、中小企業に必要なのは、「情報」と「支援人材」の2つ

ウィズコロナ時代の経営を実現すべく、セミナー企業支援に奔走。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）を知る
→セミナー DXを実行する

DXを実行する→バックオフィスの実行支援

○中小企業でもできるクラウドを活用した経営改革

経理・勤怠・給与・販売・請求・店舗管理

事例1 創業70年目の改革で、豆腐屋が事務作業を年間“600時間”削減したワケ

両国屋豆腐店 長野県富士見町

業種：食品製造業

従業員：4名

創業：1949年（昭和24年）

数十年来の、紙を中心とした非効率な働き方を豆腐屋の業務フロー全体をクラウドで「再構築」

改善後の業務全体像



◆豆腐屋のDXの効果

「何年もやりたいと思っていた営業と商品開発をする時間ができて、実際に新規受注も出たんです」

事務作業に追われる中で、毎日疲れて、一日が終わる。何もチャレンジできない日々が何年も続いていましたが、この負のサイクルからようやく脱することができました。新商品開発も積極的に。

事例2 「昭和のまま継がせたくない」

娘へ業務承継するために母が行ったこと

有限会社 トップリバー 長野県御代田町

業種：レタスの製造

従業員：約100名（季節変動あり）

創業：2000年（平成12年）

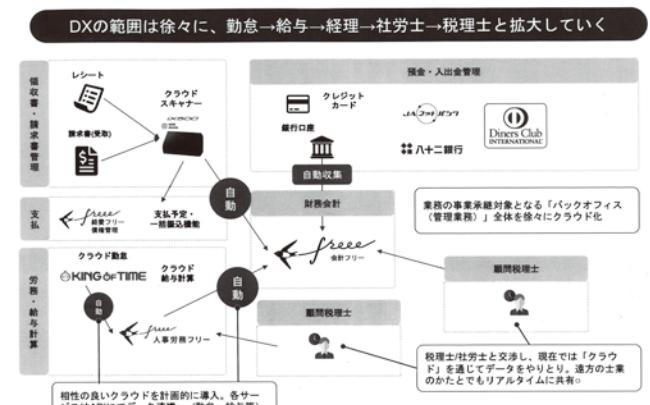
今まで4日かかっていた勤怠集計が1日に。

これなら誰でもできる、引き継げる。

◆以前の紙のタイムカードではなく、ICカードを出勤・退勤時にかざすだけ。紙からの転記・集計作業が自動化された。

◆クラウドなので、遠隔地や外出中の営業マンなどもどこでも打刻が可能。テレワークや別拠点が増えても、事務量は増えない。

改善後の業務全体像



→この状態にしてから、娘へ業務を引き継ぎ
DXの範囲は徐々に、勤怠→給与→経理→社労士→税理士へと拡大していく

ITプロジェクトを成功に導く4つのステップ

①目的・ゴール設定と“共有”

②現状調査

③DX設計図（=用件定義）の作成

④検証→スマートスタート

○なぜDX/IT化は失敗するのか：期待値のズレ

導入すれば何かいい感じになる、という“安直な期待”は捨てよう。

→DXには、知識と人員、経営者自らの「勉強」が重要と腹をくくる事！

○最後に伝えたいこと：これから経営のデジタル化をすすめるための3メッセージ

①付加価値の高い仕事のみに集中する時代へ

AIなどの進化が進む中で、会社の価値を高める仕事に集中

②テクノロジーの海へ飛び込む勇気

小さなアクションでいいから、チャレンジする勇気を

③人手不足を、人手で補わない

人手がかかる環境づくりやテクノロジーの活用が、少子高齢化・人手不足の日本の重要目標

講師

井領 明広 Iryo Akihiro 1991年生（29歳）

広島県（旧）神石町生まれ。小学生の時好きだった本はプロジェクトX（マンガ版）

早稲田大学（商学部）にて経営学を専攻。

NTT Data intra-mart入社。システムの営業／導入支援経験。後、freee（フリー）株式会社にてクラウド会計／人事システムの導入支援、営業、マーケティング等経験。

2017年、長野県にてクラウド導入支援会社「つづく株式会社」を創業

講演会写真



◆誕生日プレゼント

ガーベラが贈られました

令和3年 2月創立記念公開例会



誕生日は、写真左から小野代表幹事、鞍田炎さん（2月24日）、鈴木健寿さん（1月22日）、船生秀文さん（1月14日）、寺主君男さん（1月11日）、松崎貴弘さん（2月16日）

FMいわき「いわき経済同友会だより」

【4月予定放送】

- ・4月5日 代表幹事 小野 賢司 様
- ・4月12日 副代表幹事 長谷川祐一 様

- ・4月19日 副代表幹事 小松 ひと美 様
- ・4月26日 副代表幹事 田子 英彦 様

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。
<http://www.simulradio.jp/>

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館 4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 小野賢司代表幹事
編集 情報委員会 委員長 坂本和久
副委員長／小野嘉子・松尾幸治・四ツ倉隆裕
中山莊士郎